

06 センター漢文

分析および解説

「全体」

易しい。問題を見た第一印象は、「問題文が短い。選択肢が長くない。」ということである。心理的抵抗がかなり軽減される。問題文の内容も分かりやすく、設問も素直。昨年度に引き続いて、書き下し文や返り点が出題されていない。問題文中に難しい句法が用いられているわけでもない。普通の読解力と考える力があれば十分解答可能。もしこの傾向が続くならば、句法を中心とする漢文の知識を身につけることは、センター対策としてはあまり必要ないということになる。今年の漢文の出題に限って言えば、次のような二通りの受験生がいたことが予想される。

- 1 漢文の勉強はほとんどしなかったが、満点（あるいはそれに近い得点）を取れた。
- 2 せっかく一生懸命漢文を勉強したのにあまり役に立たなかった。ほとんど勉強をしていない友人が私と同じくらいの得点で、損をしたような気がする。

「各問」

問1

(1) 正解は

基本的な助字。この字は通常「つひに」としか読まない。例えば「如（ごとし・もし・しく）」等のように、複数の用法がある字ではない。当たり前すぎて深読みしてまちがえてしまったという受験生を知っている。

(2) 正解は

文脈から考える必要がある。あまり一般的な語ではないが、「忖度（そんたく）」という語を知っていれば、類推はより容易である。逆に考えれば、この問題が設定されたことにより、内容の理解に手助けとなっている。つまり、選択肢を眺めてみて、「あ、そうか』はかる』と読めばいいのだ。意味が通ったぞ。」と気づいた受験生が少なからずいたと思われる。

問2

(A)とも同趣向の問題。波線を付された「復作」「復囓」は、いずれも、鼠がふたたび机をかじり出すことである。ただ、前者は胡子自身がやめさせようとしたのに対し、後者は召使いの少年が胡子に命じられてやめさせようとしたという違いがある。また、「前後」とあるが、いずれも「前」の事情は書かれているが、「後」のことには触れられていない。

(A) 正解は

「作」の内容が、胡子が杖を投げつけることが鼠がかじることかにより、選択肢が二分される。もちろん後者が正しい。あとは「杖不能中鼠。鼠暫止」の内容把握だが、「杖をかむすことができた」や「逃げることをやめて」ということは、本文に書かれていない。それよりも、誤答には「すぐに、ただちに」という表現があり、不適。

(イ) 正解は

「囓」は鼠がかじることであるのは当然で、(A)のように動詞の内容で選択肢が分けられることはない。ただし、何を囓るかという点で、「童子にふたたびかみついた」「童子の枕

をかじった」という二つは不適。他の二つの誤答には、「童子がねたふりをする」と、「童子は眠ったままだったので」という明らかな傷がある。

問3 正解は

傍線を付された部分には送り仮名が省略されているが、前に「命童子」から始まる表現がもう一つあり、それを参考にすれば類推可能。「童子に命じて狸奴を取りて臥内に置かしむ」と訓読する。主語はもちろん胡子。すなわち、「命童子」の部分から直ちに、選択肢の かの二つに絞られる。次はその指示の内容である。別の部屋から猫を寝室内に移したことが書かれていて、鼠を捕まえることには触れていない。

問4 正解は

傍線部の意味は「ひっそりとして音が聞こえない」ということ。本文の出だしは、寝ようとしたら鼠ががりがり机を囓る音がしたということなので、その音が聞こえなくなったら安心して寝ることができる。 は明らかに事実に反する。 は「別室」云々とあるが、

別室のことは主たる問題ではない。 は「童子も安心して床に就いた」とあるが、主役は胡子で、童子は脇役。さらに、前半の「鼠も猫も眠ってしまった」が余計。

問5 正解は

内容的に正解に最も近いものは。ただし、「人間は霊長類の最たるもの」という表現は人間の認識としては事実であるかもしれないが、本文に書かれているのはあくまでも鼠との比較であって、霊長類全体の中で考えているわけではない。また、本文に即して考えないと 内容的に最も適当と判断するかもしれない。「人鼠より霊ならざるに非ず」とは、「人間は鼠よりも賢く優れていない訳ではない」ということで、すばしこさの比較で鼠を優位に判断することではない。 は前半は正しいが、後半の「飼いならず」云々がよくない。 は内容的に全く誤り。

問6 正解は

筆者の体験・見聞をもとに、そこから人の世に適用できる教訓を引き出す。漢文に頻出するパターン。04年度の問題とも共通する。寝ようとしたときに鼠が出てくるところまで同じ。内容的には「職」という語がキーワード。職業ということではなく、「本分、役割」。正解の選択肢は抽象的にすっきりとまとまっているが、誤答は妙な具体性が残っている。本文全体の主旨としては、そんな細かいことだけを言っているではありませんよ、ということになる。

書き下し文

胡子夜臥するに、鼠の案つくえに噛む有り、其の声磔磔然たり。胡子鼠の其の書を傷るを懼るや、乃ち暗に投ずるに杖を以てす。杖鼠に中つる能はず。鼠暫く止めて復た作す。遂に童子に命じて起きて之を逐はしむ。鼠稍竄れ去る。童子の枕に就くに及び、鼠復た噛みて已まず。時に狸奴別室に乳なる。胡子鼠の去る能はざるを度るや是に於いて童子に命じて狸奴を取りて臥内に置かしむ。是れに由りて向の磔磔たる者寂として聞こえず。噫、人鼠よりも霊ならざるに非ざるも、鼠を制すること人に能くせずして狸奴に能くす。狸奴人よりも霊なるに非ざるも、鼠狸奴を畏れて、人を畏れず。然らば則ち彼各職有るなり。君子の其の職に居る者も、亦た其の職を尽くすのみ。

現代語訳

私が夜寝ようとすると、鼠が机をかじっていて、がりがりと言がした。私は鼠が書物を傷つけることを恐れ、そこで暗闇のなかで杖を投げつけた。杖は鼠に命中させることができなかった。鼠はしばらくの間かじるのをやめていたが、ふたたびかじり始めた。そこで、召使いの少年に命じて、起きて鼠を追い払わせた。鼠はちよっとの間身を潜めていた。(しかし)少年が寝ると鼠はふたたびかじってやめなかった。その時ちよっと、猫が別室で飼われていた。私は鼠を追い払うことができないのを考え、そこで召使いの少年に命じて、猫を連れてきて寝室の中に置かせた。このことによって先ほどのがりがりという音は、しーんとして聞こえなくなった。ああ、人間は鼠よりも賢く優れていない訳ではないのだが、鼠を制することは、人間にはできなくて、猫にできるのである。猫は人よりも賢くて優れている訳ではないのだが、鼠は猫を恐れて人を恐れないのである。そつだとするならば、人や猫にはそれぞれ得意な分野があるのだ。君子は、自分の割り当てられた役割を、十分やり遂げるように努めるものだ。